

第3回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

1. 性別		2. 年齢					3. お住まい			4. ご意見		5. 鈴木顧問からの回答			
性別	70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	19歳以下	未記入	西成区	大阪市内（西成区外）	大阪府外	未記入	今回議論された内容へのご意見	今回議論されなかった内容へのご意見	
1	女性		1									1	まちづくり全体の方針が不明。移転についても、行き当たりばつたりの様な議論になっているのではないか！	福祉について等、高齢の問題のみで障がい者の問題は全くない。バリアフリー化の議論が全くない。銭湯やトイレの問題等、議論にのせて下さい。	今回のまちづくり会議は、行政が案を提示して、それを地域の方が議論するというやり方は取っていません。ボトムアップで議論して、それを全体の姿にまとめ上げてゆくという方式を取っています。そのため、まちづくり全体の方針が決まるのは最後と言うこととなります。障がい者についてのご指摘、ありがとうございます。重要なご指摘だと思います。
2	男性			1					1				・西成区は怖くない所という意見があったが、准看護師が殺されて東京まで宅配された事件とか女医さんが自殺に見せかけて殺されたまま未解決事件になっている。これで西成区は怖くない、安全な所と言えるのか。 ・シェルターに宿泊している人、炊き出しに来ている人、あいりん総合センターで休んでいる人たち等からもアンケートを取ってみれば良いと思います。		西成は怖くないという意見は、あいりん地域における犯罪率が高くないというご指摘だったと思います。これは事実です。ただ、怖いというイメージがあることや、全体として犯罪率が一定程度あることも事実です。それらについては、西成警察署と協力して「5か年計画」で治安改善を図っているところです。シェルター利用者などにアンケートすべきとのご意見、ありがとうございます。現在、どのような形で聞き取りをするか、アンケートするか、計画を作って検討しているところですので、参考にさせていただきます。
3	未記入							1				1	・病院が今後どのようなのか具体的な案が揭示されないのが不安になる。どの程度の規模かを教えてほしい。2年程前から診療所として残すとの話を多くの方が聞いている。いろんな意見が出たが、結局病院はしないということのないように切に願いたい。 ・話し合いがどのように行われているかを傍聴に来たが、説明ばかりで嫌になった。傍聴者の意見でなく会議がどのように行われているか、どんな発言をするのかを詳しく知りたい。それを見たいと傍聴しに来ている。	傍聴に来たのに一方的な説明と質疑応答であった。話を聞いているのに、職員が声をかけてきて邪魔をされた。余計な口出しをするな、傍聴席の周囲を取り囲むような人達に脅威を感じる。出入口に大勢で立ってふさぐな、壁に向かって座らせて失礼な事だと思う。公聴会ではないのでWSと必要なかどうか、意見を言う、書くにしても反映されるのではなく、一応聞いてやったで〜と終わるのではないか！ 萩ノ茶屋小学校とあいりん小学校を間違えるな、エエかげんやで！	社会医療センターについては、現在、この地域から無くないということが決まっているだけで、その規模などは全く決まっています。診療所として残すという案は、市政改革プランの外部有識者等が提言した内容ですが、それも決定されたわけではありません。まさに、現在、どのような病院をどのような形で建て替えるか、この場で議論しているところですので、ご意見がありましたら、アンケート用紙なり、次回の意見発表の場でご提示いただければ幸いです。傍聴は、ワークショップの過程の全てが聞けると言うことではありません。少なくとも、その回の議論の結論がきちんと傍聴できることが重要と考えています。また、第1回、第2回において、傍聴者から意見を言わせてほしいという要望が多く、もはや単なる傍聴と言うよりは、会場のワークショップの参加者という趣になっております。多くの方々の意見を反映させるということが一番重要なことですので、運営の仕方については、ご理解を賜れば幸いです。
4	男性			1								1	まちづくりの一環であれば、自治会のありかたのモデルケースをつくる。例えば入居条件に加入を原則にするなど、住人のネットワークを作るシステムを考えるべき。まちづくりはそこから始まるのでは？	寄り場は労働力を再生していく機能がある。そういった点をのぼす。発展させる施策が、まちのイメージアップにつながる。住みたいまちになっていくのでは？	自治会、町内会の有り方についてのご指摘をどうもありがとうございます。申し伝えて参考にさせていただきます。寄り場の意見もありがとうございました。
5	男性		1						1				次回やる時は、助役クラスを連れてくるべき！ 次回は分けるな。ややこしい。		西成特区については、西成区長がプロジェクトリーダーとして最も高い権限をもっていますので、毎回、出席をしているところです。運営についてのご意見について、ありがとうございます。今回の形がベストとは考えておらず、毎回、もっとも建設的な議論が進むよう不断の改善しております。ご理解を賜れば幸いです。
6	男性		1						1				このまちは日雇者及び貧困者が中心になんとか生活をしている町と了解しているのか？ その者を人間として生きていけるように考えてほしい。		ご指摘ありがとうございます。日雇い労働者、貧困者について、まさに包摂しサポートする施策を、西成特区として行っておりますし、これからも考えてまいりたいと思っております。



第3回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

14	男性										1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、子育てに関して、街全体が「教育になる」「子育てになる」という街づくり構想。プレイパーク(タウン)構想を進めていく。</li> <li>・まずは、すぐできることとして、いま閉鎖されている公園すべて開放してみる。その際、子どもの安心、安全、自由に必要ならば、安全見守りの人員を増やしてみる。</li> <li>・子どもが最も解決したい課題として、学力に取り組む。必ず「わかる」「できる」ようになるまで、スモールアップで、その子の学力状況に応じて取り組む。無料塾を開催する。</li> <li>・子どもが参加する、子どもが対象のまちづくり検討会議、ワークショップを開催し、子どもの意見、質問を聞く。</li> <li>・すべての人々を対象に、野宿者(路上生活者、ホームレス)に関する学習会を開催する。課題解決の行動をする。</li> <li>・まちづくり検討会議へ大阪市長、大阪府知事、国関係省庁の参加が必要。国、府、市をあげての課題なのだから、ぜひ参加する必要がある。</li> </ul>		<p>貴重なご意見をありがとうございました。重要な指摘だと思います。こどもという観点については、現在、教育関係の委員を増やす形で検討しております。また、ご指摘の点についても、この会議あるいはこの会議の後における次のステップに反映できるかどうか、検討してみます。</p>
15	男性										1	<p>市長の言う「今の施設、建物の大きさは必要なく、それを縮小してもよいのではないか」「今ある職業紹介の規模は少なくともきちんと維持できるようにする」との話は実態の理解不足もしくは詭弁に思われます。</p> <p>地区での早朝求人車両は、日毎に変動はあるものの、100台近くが求人にくるものです。そして、現在でも寄り場内に入れず、あいりん総合センター付近路上で求人している車両もあります。</p> <p>寄り場は、一定の広さを必要とする空間です。単に、最盛期の求人と比べて何%になっているから、敷地はこの位でよいだろうという計算では寄り場機能が破壊されてしまう恐れがあります。</p>	<p>携帯の普及が寄り場に行くことを好まない層の日雇労働市場への参入を容易にした。携帯をもつ若い日雇労働者は「自分はこんな仕事を一生していく訳ではない」と考えているし、労基法などの、労働者の基本的権利を知らない。そのため、賃金が安くても文句を言わないし、一人親方扱いをされて労働者性を奪われてもそのまま働いている。</p> <p>対して寄り場の労働者は互いの情報交換を通じて、労働者の権利について知っているし、きちんと文句を言う。労働者同士の情報交換をいうのは寄り場が持つ重要な機能である。</p> <p>あいりん総合センターは、今の寄り場機能を維持しつつ、より広範な意味での不安定就労層が集まり情報交換し、相談することのできる場所にすべきである。</p>	<p>ご意見をありがとうございます。重要な指摘だと思います。まさに、様々な可能性を含めて、この検討会議で議論するということであり、市長の方針通りではなく、寄り場は今の面積で良いという結論があってもかまわないと思います。重要なことは地域の意見の結果であると市長も明言しています。より広範な不安定就労層のための寄り場という意見は、委員たちからもでておりますし、ご参考にさせていただきたいと思います。</p>
16	男性										1		<p>9/22と10/6の議論を聞いていて素朴な疑問として思うことがある。6年前にセンターが極めて低い値の耐震性能であることが判明し、せつかく耐震補強をすべく市や府などで協議していたのにストップしてしまっていることだ。9/22の会議のなかで耐震補強をしても建物自体があと15年位しかもたないという話があり、何を根拠に15年という年数がでてくるのか疑わしいが、いずれにしても損得勘定の問題ではない。センターは常にたくさんの人がいる訳で命にかかわる事柄である。いつ大地震が大阪を襲うかもしれない。真っ先に耐震補強すべきだ。</p>	<p>まず、市・府・国の議論がストップしているというのは誤解で、これまでずっと行われてきましたし、いままも続いています。ただ、3者それぞれの利害もあり、議論がまとまらずに現在に至っているというのが実態です。耐震化という施策が決まっていたということも誤解で、行政的には何も手続きは進んでいませんでした。また、行政的には、建て替えが決まっている建物に、本格的な耐震補強を行うということは不可能であり、耐震補強か、建て替えか、部分移転・全移転か、いずれの方針化を早く決めることが重要と考えます。</p>

第3回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

17	男性 要望書		<p>「あいりん地域まちづくり検討会議」の皆さまへ(結核入院病床を地域内の病院に作ることを求めます)</p> <p>私の母は1970年頃から10年以上に渡って結核での入院生活を繰り返しました。父もその間、3年ほど結核で入院しました。私も学生時代に発症し半年間の通院治療を受けました。その時は完治しましたが約10年後に再発し三種以上の薬が効かない多剤耐性であったため半年間の入院と退院後も一年間の通院治療を余儀なくされました。当該の病院は遠隔地にあったため両親への見舞いも、自らの通院もとても大変だった記憶があります。この町に来て9年になりますが、ここ5年くらいはバス検診車や医療センターのレントゲン検査を毎年受けています。今回の私の考えは自らの狭い経験だけから主張しているわけではなく、素人ながら結核に関する勉強はしてきたつもりです。結核は個人の責任に帰することではなく極めて社会的・経済的疾患であること、その証左としてあいりん地区の結核罹患率が全国で突出していること。一方でDOTSははじめ現在進められているあいりん地区の結核対策自体は高く評価出来るものであることを前提として意見を述べます。</p> <p>①排菌リスクが無くなった後の入院生活において外出や面会に来る仲間との対人コミュニケーションを容易にすることは患者の諸権利の擁護及び治療継続に必要と思われること。</p> <p>②入院中においても、行政・民間を含め療養・生活の支援側と患者との必要・十分な接触機会を持つことがその後の治療継続・再発防止に繋がると考えられること。</p> <p>③退院後の通院先と入院した病院が同一である方が高い治療継続率が見込まれること。</p> <p>以上、総じて結核入院患者の諸権利の擁護を含め、入院生活の孤独感、退院後の生活への不安を払拭すること。治療継続、完治、再発防止、ひいては西成区の結核罹患率の低下に導くには地域内の入院機能(結核病床)も含めた結核対策が取られるべきと考えます。</p> <p>結核病床は社会医療センターの建て替えに伴って併設するのが現実的かと思えます。一部には結核病床を同一病院内に作る困難性・コスト面等を指摘する意見もあるようですが、設計技術的にそれほど難しいとは思えませんし、社会医療センターの建て替え計画に過大な負担を課すものとも思えません。トータルなあいりん対策の中での結核問題の重要性を理解していただければクリア出来ると考えます。改めて、結核センター構想において地域内に結核病床を作ることの議論をまちづくり検討会議に求めます。</p>		<p>貴重なご意見をありがとうございました。参考にさせていただきます。入院施設のある地域内の結核治療拠点についても、今後、西成特区としてその実現化に努力してまいりたいと思っています。社医センの有り方も含め、この会議でも議論が行われるものと思いますが、それよりも、既に方針を打ち出している西成特区本体の課題だと考えております。</p>
18	招請書		<p>現在行われている有識者によるワーキングショップ方式による話し合いの場で、傍聴者に対する不当な扱いについて、一方的に上から目線で話し合いが進められている。ここで言う不当な扱いとは具体的に傍聴者に対し次の通り規則が定められている事をいう。</p> <p>①ハチマキ・ゼッケンその他諸々の意志の表示の手段が認められていない。(国会などでは、ブルー色の拉致被害者リボン等を公然と議員が示している。)</p> <p>②国会や地方議会では当たり前に行われているヤジ行為に対し、当該行為者に対して強制的に議論の場から排除する事となっている。</p> <p>③現開催段階において、傍聴者に対して、最低必要な発言の機会が十分に与えられてこなかった。</p> <p>以上の様な運営方針から、傍聴者やワーキングショップの参加者の中には、当該ワーキングショップが最初から結論有りきのアライバイ工作(消化試合)との少なからず存在すると伝え聞く。したがって、ここは橋下市長自らが会場へ足を運び説明する事により、出来レースの疑義が強く持たれている当該ワーキングショップの必要性が担保されるのであり、ここに橋下市長の会場への招請をおこないます。</p>		<p>ご意見をありがとうございます。それも一つの考え方ですが、今回の検討会議でもっとも重要なことは、多くの方々の意見が反映され、建設的に議論が進むということです。ご指摘のような形では、意見を言いにくい人、立場を背負った意見しか言えない人、様々な可能性があり、現在の形を模索しながら続けます。もちろん、今回の形がベストとは考えておらず、毎回、もっとも建設的な議論が進むよう不断の改善をしておりますので、ご理解とご協力を賜れば幸いです。市長の会議への参加については、既に、第1回、第2回とご意見があり、市長には既にお伝えしております。</p>